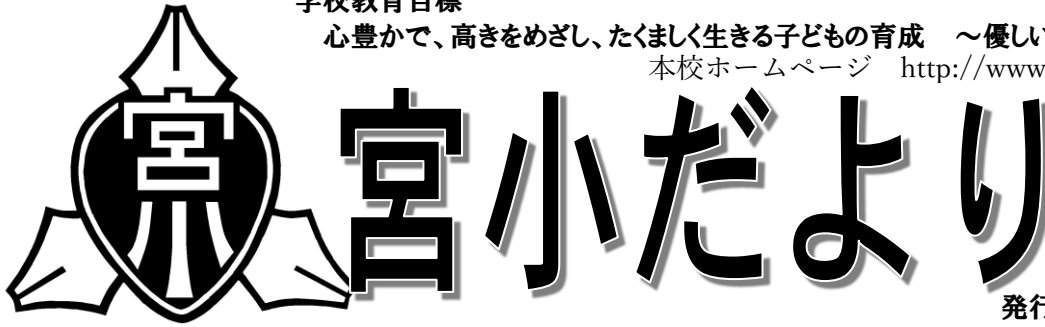


学校教育目標

心豊かで、高きをめざし、たくましく生きる子どもの育成 ～優しい子・考える子・丈夫な子～

本校ホームページ <http://www.sakata.ed.jp/miyanoura/>



令和4年7月21日号
発行:酒田市立宮野浦小学校

夏休み、どんな1日を過ごすのか…

23日から子どもたちは26日間の夏休みになります。何かやりたいことを決め、計画的にそして有意義な休みを過ごして欲しいと思います。交通事故や水の事故、ちょっとした心の隙間で起きてしまう事件や事故に巻き込まれることのないよう願っています。

さて、この夏休みどのように過ごすかによって、子どもたちの2学期のスタートが大きく変わってきます。1学期なかなか落ち着きがなかったお子さんが、2学期は見違えるような成長を見せることがあります。多くの子どもたちは、普段できない体験をしたり、少し自立した生活を送ったりすることで、十分リフレッシュ（充電）して2学期を迎えます。しかし、ゲーム三昧だったためか、生活リズムが乱れ体調を崩して2学期スタートしなければならないお子さんもいます。

夏休みは、子どもたちが「ゲームやり放題期間」になってしまっていないでしょうか。もしそうであれば、大きな危険をはらんでいます。世界保健機関（WHO）は「ゲーム障害」を国際疾病分類として認定しました。ゲームをする時間をコントロールできない、生活上の関心事や日常の活動よりゲームを優先するといった症状が継続していれば、病気であるということです。ゲームは、子どもたちの心を虜にする魅力的な遊びであることは間違いありません。また、脳の研究ではゲームによる良い効果も確認されています。一方、今のオンラインゲームは終わりがなく、画面の向こう側にいる人との競争や仲間意識が生まれるため、自分で自分をコントロールすることができなくなり、依存してしまう可能性が高いと言われています。体力低下や栄養不足、うつ気味になるといった心身の不調も来します。家族や社会との機能不全に陥ってしまう人もいます。

では、具体的にどんなことをして過ごせばよいのか…。鶴岡市にある慶応大学先端生命科学研究所の富田勝所長さんのお話です。『知りたくてたまらない状態、ワクワク感いっぱい学ぶ時こそ、その後も心に残る知識、本物の生きた知識となる。』今、本校でも目指している学びの姿です。夏休みは、ゲーム以外の何かへのめり込むチャンスです。「カブトムシに夢中になる！」「好きな工作を作りまくる！」「自分の好きなことにうつつを抜かせ！」大人から見れば、つまらないことに見えるかもしれませんが、そうやってワクワクしながら学ぶ経験が重要です。そんな子どもたちに、「そろそろやめて勉強しなさい。」と言ってしまいがちですが、子どもにとっては、それが1人1人『本当の学び』です。夏休みの生活や学習について、ご家庭で子どもたちと話し合いを持っていただければ幸いです。

校長

